

発行所 (郵便番号100)

東京都千代田区丸の内2-4-1  
丸ノ内ビルディング781号室  
社団法人スウェーデン社会研究所  
Tel (212) 4007・1447

編集  
責任者 堀内六郎

印刷所 関東図書株式会社  
定価200円 (年間購読料参千円)

1981年2月25日発行

第13巻 第2号

(毎月1回25日発行)

昭和44年12月23日第3種郵便物認可

# スウェーデン社会研究月報

Bulletin Vol.13 No. 2

Japanska Institutet För Svensk Samhällsforskning  
(The Japanese Institute for Social Studies on Sweden)  
Marunouchi-Bldg., No. 781. Marunouchi, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan

## 国際障害者年にあたって

IYDP and Sweden

理事 日本女子大学教授 一番ヶ瀬 康子

Prof. Yasuko Ichibangase

周知の通り、国際障害者年 (IYDP) のテーマは、“完全参加と平等”である。その具体化のための国連の行動計画を読むと、諮問委員会のメンバーであったスウェーデンの考え方が、随所に息づいている。ことに1960年代から、スウェーデンの障害者福祉運動が主唱し実現してきた通常化 (Normalization) 統合化 (Integration) の方向がそれといえよう。つまり、障害者が一般の社会から特別な存在として分断・隔離されるのではなく、一人の市民として“自立”しながら日常生活を営むよう、その在り方を住居を起点とし、地域のなかで計画し実現するという方向である。有名なS・ブラットゴード (S. O. Brattgard) 博士のフォーカス・アパートなどは、まさにその先駆であり具現化であったといえる。また1970年代にかけての各地のニュータウン計画のもとでのコミュニティ・ケアへの努力は、各国に比して、より進んでいる。そのことは、衆目の一致するところである。

しかし、社会福祉の外国研究においては、たんにスウェーデンの事情を紹介すれば足りるというものではない。その福祉の思想を、日本にどう土着化させるかについての具体的な方法が検査されなければ意味がない。この点において、さいきんのスウェーデン研究の先端をいっているのは誰だろうか。私は、書斎の研究者よりも、むしろスウェーデンに自らおとづれ、スウェーデンの障害者とともに暮してきた日本の障害者の人々ではない

かと考えている。彼らは、“参加観察”“体験学習”とでもいえる方法で、実に多くのことを学び、その報告をまとめはめている。

私が支援したものだけでも、障害者およびその親が中心になって結成した埼玉社会福祉研究会 (代表八木下浩一) が、報告をまとめ3月末に刊行する。また、ブラットゴード博士と対面、助言をうけて帰国した障害者を中心に、日本の住宅での実験もはじまっている。札幌いちご会 (代表小山内美智子) の実験であり、その成果は、ブラットゴード博士の講演・論文とともにまとめられ、「心の足を大地につけて」という題で刊行されている。そして、「日本の、札幌でのわたしたちの研究生活は、スウェーデンのケア付き住宅とはあまりにもかけ離れている。しかし、自分たちの夢を行動にした時、ブラットゴード博士の言葉にぶつかる。」「同じ苦しみや悩みを持っているスウェーデンの人たちがやり遂げたのですから、わたしたちにもきっとできます。」と記されている。

### 目次

国際障害者年にあたって……………一番ヶ瀬康子…	1
スウェーデン社会における伝統と革新 ……………中嶋 博…	2
研究会ニュース (第3回福祉研究会 —教育福祉) …	3
スウェーデンに関する最近の著書論文 (永山 泰彦) …	4
55年度研究月報目次一覧……………	4
55年度研究所活動メモ……………	5

# スウェーデン社会における伝統と革新

Tradition and Innovation in the Swedish Society

常務理事 早稲田大学教授 中 嶋 博

prof. Hiroshi Nakajima

## ○ 地域社会の文化を求めて



1978年秋から発足したスウェーデンの“地域社会に開かれた学校”、いわゆるS I A学校が地域社会においてどのように展開しているかは、

私の近年の研究課題の一つであった。

北欧文化協会とS A Sの共催になる昨年12月19日～28日の「北欧ホワイトクリスマスの旅」は、中部スウェーデン、ダーラーナ地方の地域社会と文化をさぐるものであり、6度目の訪瑞の機会を与えてくれたものであったが、さきの課題を見事に解決してくれた。しかもサーブ社やボルボ社で僅か数百名の新規採用予定があるということが、現地の新聞のヘッド・ラインとなるような経済的不況の下にありながらも、スウェーデン社会の活力ないし底力、また伝統と革新について考えられるところが余りにも多かった。よって以下に2、3の点について報告を試みたい。

## ○ 高齢化社会における家族



ストックホルムからバスで約3時間半、中部ダーラーナ地方の氷にとざされたシルヤン湖畔のシルヤンネスが主たる宿泊地であった。平均

寿命男子75歳、女子80歳になった高齢化社会にふさわしく、子どもや孫たちと離れ、仲間たちと自由を求めてクリスマスを通し各地の老人クラブや老人ホームから多数の人たちがホテルにやってきていた。ダンスや余興となると青年も顔負けの活潑さを発揮する老夫婦や単独者も少なくなかった。これを第一の型とする。

ところでホテルの女主人のC、ヘッドベリーさんは、ご主人と共にホテルを経営しているが、彼はストックホルム大学でT・フセーン教授の国際関係論を受講したほどの国際感覚の持ち主。結婚してダーラーナに骨を埋めようと覚悟するや、ストックホルムから母上を呼びよせ、別館のレストランの経営をまかせたというが、それはまさに「スープのさめない」距離。しかもホテルが忙しければ手伝ってもらい、またクリスマス第2日は、この母親を迎えて孝養の日。これを第二の型とする。

ところでニーゴールド家(写真左上)のように、平素は夫婦に老いた母親を加えての生活をしているが、クリスマスその他に遠方から子どもと孫を加えて大団楽の第三の型がある。ニーゴールド氏のもと村役場の職員で、現在は学校に用務員として勤務しており、息子はウップサラのエンジニア。核家族化の進行があたかも進んだ社会の特質のように考えられているが、上記の三つの型にみられたように、古き良き伝統が生きていることを、まざまざと見せつけられたことであった。

## ○ 感激のクリスマスミサ

1876年に設立されたシルヤンネス教会は、町の中心に位置していた。12月25日午前4時の鐘の音を合図に、人びとはタイマツをかざして雪の道を教会へと足を運ぶ。私は15分前に到着したが立錐の余地もない。とくに驚かされたのは、平素教会に足を運ばないとされる青少年のいかに多いことか。しかしそれ以上の感激は、「天使の声」ともいえる混声合唱の聖歌隊によるクリスマスキャロルの数々(写真左)。5時きっかりにミサが開始され、1時間続く。その間いわぶき一つ聞えない。「世界の各地に、憎しみ、不信がみちみち、飢えで死ぬるものも少なくない。今日の佳き日に当り、キリスト生誕の意義を考え、覚悟を新たにしようではないか」というのであったが、出発前に北欧音楽研究家の大東省三氏のいわれたように、スウェーデン一とされる聖歌隊に合わせて讃美歌

を口ずさむことができたことは最高の幸せであった。

午前7時からスウェーデン放送によるテレビの第1チャンネルを通して、ガムラ・スタンの教会からのミサの実況中継が1時間にわたってなされた。献金時に大司教が、パンを二つにさき、世界の恵まれない子どもたちのためにと訴えたが、その奉仕に当たったのは、スウェーデン教会スカウトの青少年であり、国際愛とボランティア精神の横溢する社会の一断面を見ることができた。

### ○ 統合の原理と実際

1970年代に入ってからスウェーデンの高齢化社会に対処する方策として、老人住宅やホームを、団地の中心にもってきて、若者との交流を促進させることがあった。そしてそれは、大都市郊外のニュータウンづくりに生かされていた。



ところがS I A学校の促進により、学校の隣りに老人ホーム、その隣りに青少年センターをおくことは、ストックホルム郊外リデンイエーの団地の場合のようにみられるところであった。

さて今回の視察により、それが地方の小都市、

## 研究会 ニュース

### 福祉研究会 (第3回)

福祉研究会 (主査慶応大学教授庭田範秋氏) の第3回は、1月17日早稲田大学教授中嶋博氏により「教育福祉」の発表が行われた。

スウェーデンの教育福祉は、社会庁の所管にかかわる社会福祉 (社会給付として) の一環であって、文部省と学校教育庁の問題ではない。教育福祉は教育の民主化、ひいては社会の民主化のために大きく寄与するものであって、スウェーデンの場合、教育福祉によって単なる概念的民主化ではなく、これで社会的民主化が実現されている。教育福祉とは、国家が国民全般の就学を援助することであって、勉学の意欲と能力のある者は何時でも何処でも誰でも無償で教育が受けられるシステムである。いいかえれば教育の平素化であって、

#### 1) 教育制度の総合制

田舎でも実施に移されているのを知ったのであった。すなわちシルヤンスネスの場合、老人ホームの隣りに青少年センター、教会と並び (写真右)、それに直結するものとして、基礎学校と就学前学校が配置されていたが、まさに統合の原理が、スウェーデンの全土に浸透しているのを目のあたりにしたのであった。



### ○ S I A学校の建設と学習社会

こうした地域社会の統合体としての文化センターの役割を果たす新しいS I A学校は、昨年2月14日に新学習指導要領も告示され、その全面的実施は82~83年度からとされているが、それに間に合わすべく、各コミュニオンは一方ならぬ犠牲を払っているのであった。シルヤンスネスの場合、レクサンド・コミュニオンは第一期工事を終了し、第二期工事をこの夏までに終了すべく、鋭意、学校を建設中であった (写真左)。

以上みられたものは、経済的不況にもかかわらず、スウェーデンは、福祉社会、学習社会の建設のために、「伝統」と「革新」の両面から、総力をあげて立向っていることをつくづく知らされた視察旅行であった。

- 2) あらゆる社会階層が経済的、地理的、社会的理由に阻まれることなく教育が受けられること。
- 3) 生涯教育、リカレント教育の可能性に要約できる。

なお「一般年鑑1981」から、とくに中等教育の部を引用して、教育福祉の特徴を示した。

- 1) 児童手当 16歳以後も19歳まで延長
- 2) 奨学金 16歳以後、月 233Kr、年9ヶ月)
- 3) 下宿費補助 月 285Kr、学期中 (以下同じ)
- 4) 通学費補助 通学距離 6 km 以上 月 130 ~ 325Kr
- 5) 収入審査付き補助金 最高月 125Kr
- 6) 必要審査付補助金 最高月 200Kr
- 7) 返済付育英金 以上の外

(小野寺百合子 記)

# スウェーデンに関する最近の著書論文

Papers on Sweden

永山 泰彦 (東海大学教授、当研究所評議員)

- 「スウェーデンの労働市場政策」 日本労働協会雑誌 1978年10月 (No.235)
- 「福祉大国スウェーデンの悩み」 朝日ジャーナル 1978年12月22日
- 「スウェーデンからの選挙速報」 スウェーデン社会研究所月報 vol. 11 No.10 1979年10月号
- 「高福祉・高負担と信頼される政府の関係一転機にたつスウェーデン」 朝日ジャーナル 1980年1月25日
- 「北欧における勤労者財形制度と投資基金構想」 丸尾直美、原田運治、永山泰彦共著  
「ヨーロッパ財産形成の新動向」 財形福祉協会 昭和55年3月、第3、4章
- 「北欧」、民主社会主義研究会議編「大系民主社会主義1思想」文芸春秋社 1980年10月、第3章
- 「北欧における産業民主主義」、民主社会主義研究会議編「大系民主社会主義4 労働」 文芸春秋社 1980年12月、3-4

## お詫び

前号の本欄に坂田仁氏の著書論文をご紹介いたしました。お肩書は横浜家庭裁判所調査官と記載すべきところ、誤って東京家庭裁判所調査官と印刷しましたので、お詫びして訂正させていただきます。

## 昭和55年度研究月報目次一覧

No 1	年頭にあたって……………所長	平田 富太郎
	スウェーデンにおける男女平等……………理事	小野寺 百合子
	社会民主主義の危機……………駐瑞日本大使館参事官	松下 正三
No 2	新しいスウェーデン研究の視点……………名誉所長	西村 光夫
	埋もれていた一流経済学者と経済学雑誌……………早稲田大学教授	柴 沼 武
	福祉政策の総合化について(研究シリーズ(8))	
	消費協同組合運動における統合……………理事	内藤 英憲
No 3	スウェーデンの示唆するもの……………理事	土屋 清
	ご来日のスウェーデン国王のプロフィール	
	Uppsala通信(2)……………スウェーデン政府留学生	三瓶 恵子
	福祉政策の総合化について(研究シリーズ(9))	
	教育と福祉政策の総合化……………常務理事	中嶋 博
No 4	厚生年金65歳支給と部分年金……………常務理事	松本 浩太郎
	高須裕三理事にスウェーデン政府より勲章授与	
	スウェーデンの老人福祉政策を訪ねて……………横浜市南福祉事務所	松村 祐子
	Uppsala通信(3)……………スウェーデン政府留学生	三瓶 恵子
No 5	さすが開かれた王室……………理事	小野寺 百合子
	スウェーデンの新しい社会サービス法案(上)……………横浜家庭裁判所調査官	坂田 仁
No 6	宮中晩餐におけるスウェーデン国皇帝陛下の御答辞	
	Uppsala通信(4)……………スウェーデン政府留学生	三瓶 恵子
	スウェーデンの新しい社会サービス法案(下)……………横浜家庭裁判所調査官	坂田 仁
No 7・8	合併号 ミュルダール博士をお迎えして……………名誉所長	西村 光夫
	スウェーデン男女雇用平等法……………専修大学教授	菱木 昭八朗
	スウェーデンの新しい社会サービス法案(下)……………横浜家庭裁判所調査官	坂田 仁

No 9	日本自身の自主防衛こそ平和の途……………	気賀健三
	大平前理事長への追悼……………	名誉所長 西村光夫
	I E A の国際教育調査……………	国立教育研究所室長 沢田利夫
	スウェーデンの新しい社会サービス法案(四)……………	横浜家庭裁判所調査官 坂田仁
No10	福祉社会の流通・生協視察調査団(第5回視察団)の旅を終えて……………	理事 内藤英憲
	「第5回福祉社会の流通・生協視察調査団」報告……………	評議員 福田雅一
	スウェーデンの新しい社会サービス法案(五)……………	横浜家庭裁判所調査官 坂田仁
	フォルケ・シュミット名誉教授の死を悼む……………	専修大学教授 菱木昭八朗
No11	スウェーデンの安全保障政策の前途……………	顧問 小野寺信
	スウェーデンの新しい社会サービス法案(六)……………	横浜家庭裁判所調査官 坂田仁
	福祉社会の流通・生協視察調査団に参加して	
	欧州生協運動の旅……………	全国農業協同組合連合会生活部長 鳴海国輝
	視察旅行印象記……………	農協流通研究所 梅沢昌太郎
No12	スウェーデン経済の新しい展望……………	理事 丸尾直美
	議会制民主主義と国王の地位……………	早稲田大学教授 清水望

## 研究所の活動メモ 55年

1. 16 55年度第一回スウェーデン語講習会開講(通計42回目)
1. 29 スウェーデン大使館ヨベウス参事官と懇談
2. 13 厚生省厚生科学研究補助の申請書提出
3. 10 55年度スウェーデン派遣研究員の面接試験実施(日瑞基金事務)  
公企労センターへ委託研究の「福祉国家における年金制度」の論文を提出
4. 3 当研究所理事高須裕三日大教授がスウェーデン政府より北極星勲章オフィサーを受領
4. 14 平田所長が来日されたスウェーデン国王、王妃歓迎の宮中晩餐会に出席  
大使館主催の国王、王妃歓迎会に西村名誉所長、平田所長出席
4. 18 健保連より「スウェーデンの医療供給制度と医療費支払制度」に関する研究委託の通知受領
4. 26 当研究所の通常理事会および総会開催
5. 12 55年度第二回スウェーデン語講習会開講(通計43回目)
5. 22 大使館ヨベウス参事官来所、企画・実行委員と懇談
6. 24 大使館会議室で公企労センター委託論文(年金制度)完成記念講演会開催(松本、庭田理事、石本忠義氏、上村政彦氏講話)
6. 26 日瑞基金の通常理事会、総会開催
6. 27 年金制度研究開発基金に「経済変動下における年金財政の健全化の研究」のテーマで助成申請(承認)
7. 10 大使館科学技術部グリーン参事官の送別と新任のブッド参事官歓迎会開催
8. 14 年金財政の健全化の研究の初会合開催  
日本文化研究のため来日のプロムベリー女史と懇談
8. 21 福祉社会の流通・生協視察調査団(コーディネーター、内藤英憲理事、福田雅一評議員)出発(9.8帰国)
9. 4 スウェーデン大使館より本年度寄附金受領
9. 17 日本万国博覧会記念協会へ56年度助成を申請
9. 29 56年夏季実施予定の高齢化社会調査視察団の計画打合開始
10. 13 55年度第三回スウェーデン語講習会開講(通計44回目)
11. 20 日瑞基金創立十周年記念講演会(IVAハンブレウス総裁講演)および記念パーティー開催、席上で土光前基金会長および西村専務理事にIVAよりメダル贈呈
11. 21 政治、外交研究会開催(小野寺信顧問のスウェーデンの国防について)
11. 22 福祉研究会(シリーズ開催の第一回)開催(松本浩太郎常務理事の年金問題)
11. 28 男女平等問題研究会(フレドリカ・ブレメル協会会長ウイクストランド女史の雇用における男女平等問題)開催
12. 16 年金財政の健全化に関する第二回研究打合会開催
12. 19 中嶋博常務理事がスウェーデンの地域社会と文化の研究視察に渡瑞
12. 20 第二回福祉研究会開催(林宏東洋女子短大助教授の社会における身障者の位置づけ)

## 高令化社会視察調査団へのお誘い

1980年以降“迫り来る高令化社会”が現実となってくることは最早衆知の事実となりました。しかも日本では高令化のテンポの速さとピークの高さが西欧先進諸国に例をみないという切実さをもっていると推定されております。我々としてはそうした現実に対応し、新しい進路を切開いていかなければなりません。

スウェーデンは、一足先に高令化を経験し既存のコースの延長を走らず且つ福祉精神を崩すことなく豊かな生活を追求しつつ、現代社会に生きる道を開拓している先進国と言えましょう。そこには我国の体質改善に資すべき豊富な実例があり、又多くの示唆があるものと確信致します。そしてすでに完全な成熟社会に達し高度の福祉社会を実現して来ている西欧先進諸国の歴史を学び、その現在におけるシステム特に国と地方自治体と企業（職域）の機能と役割並びにその関連施設の実態をつぶさに視察する必要があると思われれます。

当研究所が主催するかかる意味での視察団は、今回で6回目となります。この度も従来と同様に在日スウェーデン大使館を始め現地のSWEDISH INSTITUTEその他各国関係先のご支援ご協力によりまして、大きな成果を挙げ得るものと信じております。なお、本視察団のコーディネーターは、日経連理事、財形福祉協会常務理事、当研究所理事の佐々木大がお勤めいたします。同氏はヨーロッパ諸国を度々訪れ此度の視察研究分野に精通し皆様方のお役に立つと存じます。

所長 平田 富太郎

### 視 察 先 一 覧 ( 予 定 )

日 程 昭和56年8月22日～9月6日 (16日間)

都 市	視 察 先	備 考
ストックホルム (スウェーデン)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・厚生省、社会福祉事務所</li> <li>・スウェーデン産業連盟又は経営者連盟(SAF)。地方政府職員組合(SKTF)又は労働組合連盟(LO)</li> <li>・雇用促進庁、労働市場庁(AMS)</li> <li>・社会保険庁(年金)、SPP(Swedish Staff Pension Society Mutual Co)</li> <li>・代表的企業……ATLAS COPCO AB(械機工業) ニュータウン ・老人病院</li> </ul>	人事労務担当者との懇談
マルメ (代表的地方都市) (スウェーデン)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市役所(福祉部)</li> <li>・老人ホーム・ ルンド大学</li> </ul>	HEDLÉN部長  LECTURE
コペンハーゲン (デンマーク)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本大使館</li> </ul>	
ジュネーブ (スイス)	ILO	社会保障専門官
デュッセルドルフ (西 独)	INSTITUTE OF D. G. B. (経済社会科学研究所)	組合研究所
パリ (フランス)	ARRCO (職業別協約年金連合会)	協約年金関係
ロンドン (英 国)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障庁</li> <li>・TRADE UNION CONGRESS</li> </ul>	

旅行費用……830,000 (25名以上の場合) 旅費、宿泊料、食事代、バス代を含む。

お申込み お問合せ……社団法人 スウェーデン社会研究所 電話 03-212-1480・1447

又は 〒104 東京都中央区銀座1-9-12 西山興業東銀座ビル

株式会社ユニバーサル航空サービス 電話 03-562-3471~8